

扇 II

亡くしたものを また そこへかへすことは
亡くした心を失ふことだ
わざとしたあやまりを わざと直すことは
よいこととは言へないやうだ
約束したものの空しさを知つてゐるためにと
言ひくらしめて あてにしないことも
約束の満たされない悲しみの美しさを
そこなつてしまふことだ
智慧なくして置かれた一本の扇にも
私はとりかへしのつかないあやまちを思ふ
もえるのならばもえるがよい
そのままにしづかに保ちながら
自分といふものをするどくみがくがよい
それにつけても
あれは
風に飛び
音たてて
流れの暗に入った賢き扇
紅うすくつき
夜毎の舞ひにお前の手に生きた
賢き扇
もえるのならばもえるがよい